

認知症高齢者グループホームにおける 認知症ケアマッピングを用いたケア行動計画の立案

田島明子 1)、阿部邦彦 2)、鈴木みずえ 3) 大江良信 4)、奥恵子 4)

1)聖隷クリストファー大学、2)フリーランス、3)浜松医科大学、4)グループホーム広尾

【はじめに】2013 年度の共同研究において、グループホーム広尾（認知症高齢者グループホーム、東京都渋谷区）をフィールドにし、認知症ケアマッピング（以下 DCM とする）の導入と 1 回の実施を行い、DCM 実施前の認知症ケアの困難についてケアスタッフに聴取を行った。2014 年度は 2013 年度に引き続き、3 回の DCM を実施し、これまで合計 4 回の実施をした。また 3 回目の実施後には、介護スタッフ全員が参加する勉強会でフィードバックをし、アクションプランの検討を行った。

今後は、家族会を利用して家族向けに DCM の結果のフィードバックも行い、DCM の実施と結果の家族による受け止めも調査する予定である。以上の結果を基に、施設長、施設管理者、ケアスタッフとともに DCM の結果を今後の施設ケアの方針にどのように生かすかの検討会を設け、ケア行動計画の立案を行う予定である。

【研究方法】A 認知症グループホーム（A ユニット、B ユニット）において DCM を 4 回実施した段階であり、実施後の調査については今後行う予定である。報告会では 4 回の実施結果と 3 回目後に実施したフィードバック時に導出されたケア行動計画について報告をする。

【倫理的配慮】認知症高齢者家族に対しては DCM や研究目的、配慮事項等についての説明を行い、署名にて同意書を得た。同意書を得た認知症高齢者のみ DCM を実施した。

【結果】

1 回目（平成 26 年 2 月 20 日実施）：A ユニット：グループ WE 値分布図は+3 が 60%、+1 が 35%、+5 が 2%、-1 が 1%であった。個人 ME 値の平均が+2.2、行動カテゴリーコード分布図は A（36%）、E（15%）、F（18%）が多くを占めた。B ユニット：グループ ME 値分布図は+3 が 50%、+1 が 45%、-1 が 5%であった。個人 ME 値の平均が+1.9、行動カテゴリーコード分布図は A（20%）、I（34%）、F（16%）が多くを占めた。

2 回目（平成 26 年 7 月 25 日実施）：A ユニット：グループ ME 値分布図は+3 が 45%、+1 が 52%、-1 が 3%であった。個人 ME 値の平均が+1.8、行動カテゴリーコード分布図は L（33%）、A（30%）、F（14%）が多くを占めた。B ユニット：グループ ME 値分布図は+3 が 39%、+1 が 50%、-1 が 9%、-3 が 2%であった。個人 ME 値の平均が+1.6、行動カテゴリーコード分布図は F（21%）、A（16%）、E（13%）が多くを占めた。

3 回目（平成 26 年 9 月 8 日実施）：A ユニット：グループ ME 値分布図は+3 が 37%、+1 が 59%、-1 が 4%であった。個人 ME 値の平均が+1.6、行動カテゴリーコード分布図は L（35%）、F（30%）、A（14%）が多くを占めた。B ユニット：グループ ME 値分布図は+3 が 41%、+1 が 48%、-1 が 11%であった。個人 ME 値の平均が+1.6、行動カテゴリーコード分布図は F（18%）、A（16%）、L（12%）、K・V（10%）が多くを占めた。

4 回目（平成 27 年 2 月 13 日実施）：A ユニット：グループ ME 値分布図は+5 が 15%、+3 が 43%、+1 が 39%、-1 が 4%であった。個人 ME 値の平均が+2.4、行動カテゴリーコード分布図は F（18%）、A（16%）、L（12%）、K・V（10%）が多くを占めた。B ユニット：グループ ME 値分布図は+3 が 31%、+1 が 69%であった。個人 ME 値の平均が+1.6、行動カテゴリーコード分布図は E（35%）、L（20%）、F（11%）、K・I（6%）が多くを占めた。

【まとめ】2 回目実施の際には介護スタッフの入れ替わりがあり ME 値の低下がみられたが、回数を追うごとに特に認知症軽度者の多い A ユニットでは値の向上がみられた。3 回目の実施後に直接フィードバックを行ったが、4 回目には入居者の活動の多様化が観察されていた。